

帯状疱疹ワクチン

青葉アーバンクリニック（2025 年 6 月作成）

帯状疱疹は水痘（みずぼうそう）のウイルスが原因でおきる病気で、体の様々な部位に非常に痛い発疹が帯状に出現し、重症の場合は入院を要します。高齢になって免疫が低下した時に帯状疱疹を発症する可能性があり、80歳までに約3人に1人が帯状疱疹にかかると言われています。予防接種を受けることで病気の発症、重症化、後遺症（帯状疱疹後神経痛）を減らすことができます。また、帯状疱疹は約 6.4%に再発が認められるため、帯状疱疹にかかったことがある人の再発予防としても予防接種が有効です。

帯状疱疹のワクチンは下記2種類があります。どちらのワクチンも接種可能な方であれば、費用は高いものの、医学的には効果の高いシングリックスをお勧めします。

<2つの帯状疱疹ワクチンの比較>

ワクチン名	シングリックス	ビケン
ワクチンの種類	不活化ワクチン	生ワクチン
費用(税抜き)	23,650 円/回 * 定期接種では10,000 円/回	8,500 円 * 定期接種では4,000 円
接種回数	2 回	1 回
接種方法	筋肉注射	皮下注射
効果		
発症抑制率	50歳以上 97.2% ～年齢層別予防効果～ 50-59歳 96.6% 60-69歳 97.4% 70-79歳 91.3% 80歳以上 91.4%	60歳以上 51% ～年齢層別予防効果～ 50-59歳 69.8% 60-69歳 64.0% 70-79歳 41.0% 80歳以上 18.0%
神経痛(後遺症)抑制率	50歳以上:100% 70歳以上:85.5%	60歳以上:66.5%
持続性	少なくとも11年程度	5年程度
副反応 痛み、発赤、腫れ 発熱、だるさ、筋肉痛	9.4% 10.8%	0～4% 1%未満
対象者	【定期接種】 ①65歳の人(経過措置として2025年度内に70、75、80、85、90、95、100歳となる方、及び、初年度に限り100歳以上の方) ②ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に1級相当の障害のある方 【任意接種】 50歳以上の人、または、帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上の人	【定期接種】 ①65歳の人(経過措置として2025年度内に70、75、80、85、90、95、100歳となる方、及び、初年度に限り100歳以上の方) ②ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に1級相当の障害のある方 【任意接種】 50歳以上の人

(注)ビケン[®]は生ワクチンのため、妊娠中、免疫に異常のある方(免疫不全)、免疫を抑える薬を飲んでいる方は接種できません。また、接種後 2 ヶ月間は避妊が必要です。

◆どちらのワクチンも、特に高齢者施設に入所中の方、脾臓がない方、基礎疾患(心臓や呼吸器の慢性疾患(心不全、肺気腫、喘息など)、腎不全、肝機能障害、糖尿病、慢性髄液漏など)のある方には、特にお勧めします。

◆免疫不全(エイズ、無脾症、骨髄腫、固形臓器移植など)のある方、免疫を抑える薬(ステロイドや免疫抑制剤など)を飲んでいる方は、生ワクチンであるビケン[®]は接種できませんが、不活化ワクチンであるシングリックス[®]は比較的安全に接種できるため、ご希望の方は医師に相談してください。

◆带状疱疹ワクチンの詳細に関しましては、下記QRコードをご参照ください。



◆横浜市の带状疱疹ワクチン接種事業の詳細に関しましては、下記QRコードをご参照ください。



★ご不明な点がございましたら、医師にお気軽にご相談ください